

## 留学・研究計画書

氏 名 梅尾 亮子 (とが お りょうこ)	留 学 機 関 名 中国音楽学院
留 学 先 国 中華人民共和国 名	留 学 期 間 西 2004 年 8 月 ~ 2005 年 7 月 歴
研究テーマ(留学目的)  早期琴楽の音楽構造	
研究テーマ(留学目的)の説明	
<p>琴楽とは、中国七弦琴の音楽を指す。七弦琴は琴(きん)、古琴(こきん)とも呼ばれ、七本の弦と十三個の徽(勸所の印)を備えているのが構造上の特徴である。この構造は現存する唐代の楽器から見て、基本的に変わっていないことが知られている。また、七弦琴は歴史的に知識人に好まれた楽器であるため文字資料が比較的多く残っており、「琴学」という学問が形成された。</p> <p>七弦琴の楽譜を琴譜(きんぷ)といい、現存する大部分の琴譜は明清時代のもので、七弦琴専用の奏法譜で記されており、約100種の琴譜集が確認されている。明代中期頃までの琴譜集には、唐宋などの前時代から継承された楽曲が含まれると一般的に考えられている。その主たる根拠は、一部の楽曲に付された解説や注記であるが、楽譜しか残されていないものもある。楽譜を解釈復元すると、楽曲の成立した時期によって音楽様式に変化があることが指摘されている。しかし、この楽譜しか残されていない楽曲の起源や音楽的特徴の研究は単発的なものに留まっており、十分に解明されていない。本研究はここに焦点を当てるものである。</p> <p>今回の留学は、学位論文の構想の根幹を成す部分であり、現存する明代に成立した琴譜集約40種の内、中期までの27種を対象に、早期の楽曲を抽出し、楽譜を解釈復元して、その音楽構造や特徴を明らかにするための、一連の適切な方法を習得するのが目的である。</p> <p>私は前回の中国留学で、七弦琴の基本的奏法と中国語を習得した。その時師事した七弦琴の先生の先生のお一人が呉文光氏である。呉文光氏は現在北京の中国音楽学院の教授で、中国民族音楽学の優れた研究者であり、七弦琴の奏者である。1998年に東京で行われた琴学のシンポジウムのために呉文光氏の手稿の翻訳をさせていただいたのがご縁で、以来琴学の専門的アドバイスが必要な時にお世話になっており、今回も留学できたらご指導いただく承諾を得ている。</p> <p>1950年代に中国では琴譜集などの史料研究が進み、影印(リプリント)が出版され、それまでごく一部の人しか知らなかった、明代早期の琴譜集を多くの方が用いるようになった。ところがそれまで演奏や研究に用いていたのは、主に清代のものだったので、奏法や様式にやや違いがあり、そのような明代早期の琴譜集を用いる場合は、考証が必要となった。呉文光氏はこの分野の理論と演奏の研究で優れた業績を積んでおられ、ぜひこの方のもとで専門的に学び、将来は音楽学研究の面で日中の学術交流活性化のお役に立ちたい。</p>	